

■現行計画の体系

分野別の目標	基本的な方向
1 国際理解を進める機会づくり	(1) 国際理解の推進
	(2) 多様な文化を学べる機会の充実
2 国際交流を進める機会づくり	(1) 交流の機会の拡充
	(2) 交流を支える人材の育成及び支援
	(3) 交流拠点の充実
	(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化
3 外国人が快適に暮らせる環境づくり	(1) 外国人の暮らしの支援
	(2) 地域活動への参加促進

■新しい体系における課題認識(案)

分類	概要
国際理解・国際交流	国際交流・国際理解に対する区民の動機づけ
	区民と外国人との交流機会の拡充
	国際交流を担う人材の育成・活用
	海外都市との交流の推進と区民への情報発信
外国人支援	多言語対応の推進
共通	外国人を受け入れるマインドの醸成

○現行計画では「国際理解」と「国際交流」が分野別目標において別々でしたが、国際交流の目標は国際理解だととらえ、分野別の目標は「国際理解」と「外国人支援」の二本立てにしました。

○交流のための「機会」「拠点」など、現行計画は基本的な方向のレベルで細分化されていましたが、新しい計画では「交流の機会の拡充」にまとめました。

○国際交流にかかわる人材については、育成だけでなく、既に取り組んでいる方との連携も含め、「1-(3)国際理解に向けた情報の収集・発信・共有」でまとめました。

○新しい計画の「2-(1)区の資源を活用した、歴史文化等への理解の推進」は、外国人向けの生涯学習という意味合いも含めて考えています。

■新しい体系(案)

分野別の目標／基本的な方向	分科会での主なご意見	現行計画との対照
1. 国際理解を育む機会づくり		
(1)交流の機会の拡充	○国際交流フェスタはできれば複数回やった方がよい。たとえば毎回国を変えて実施すれば、外国人も、出展者としてだけでなく、来場者として楽しめるのではないかと。 ○国際交流フェスタの会場で、交流する仕掛けが拡充するとよい。 ○UNWOMEN や大学、留学生、ABK などの地域資源の活用することで機会の拡充が可能ではないかと。 ○交流の機会の対象として外国人住民も含まれていることを示した方がよい。外国籍の子どもたちへのアプローチも必要。 ○オリ・パラをきっかけとした交流を事業として含めたい。ただ、オリ・パラのときに何をやるかではなく、「変化」のきっかけとして活用するとよい。 ○教育との連携は大事だと思う。教育分野との連携はむずかしいかもしれないが、情報共有を図り、適宜発信するなどは考えられるのではないかと。	2-(1) 2-(2) 2-(3) 3-(2)
(2)海外都市との交流の活性化	○カイザーслаウテルン市とは計画期間中に姉妹都市提携 30 周年を迎えることを契機にした事業が検討できる。 ○姉妹都市については小学校の授業で習うが、大人になると忘れてしまう。情報提供を広げた方がよい。 ○国際交流は区民で既に取り組んでいる人がたくさんいる。そういう人を区が探してはどうか。 ○英語圏の都市とも交流をもってはどうか。 ○都市間交流は手間もお金もかかるので、学校レベルや産業交流など、小さな交流を起こしていけるとよい。お互いに目的を共有できる都市と交流できるとよい。それが区民の国際感覚を磨くことにもなる。	2-(4) 2-(2)
(3)国際理解に向けた情報の収集・発信・共有	○子どもの国際交流に、リタイアした世代が協力できることもあると思う。 ○区が既に取り組んでいる人をサポートして、取組みを広報していけば、他の区民の意識はすぐに高まるのではないかと。そうすれば「私もやろう」という人が増えるのではないかと。	1-(1) 1-(2) 2-(2)
2. 外国人が快適に過ごせる環境づくり		
(1)区の資源を活用した、歴史文化等への理解の推進	○区民の中でも外国人を受け入れる体制もまだ十分でないとも感じている。うまく雰囲気、体制をつくっていけるとよい。 ○留学生が日本の事を知る過程で区民の方が外国人と交流し、国際感覚を養い、区民のレベルから取り組んでいくという視点が大事なのではないかと。 ○オリンピック・パラリンピックの観光客も対象ととらえた方がよい。 ○区の資源を使って日本の文化を理解する機会をつくるという考え方がよい。	1-(2)
(2)外国人の生活・滞在に対する支援	○今後は観光客も住民と同様に大切になると思うので、滞在者に対する視点も加味されたい。	3-(1)・(2)